

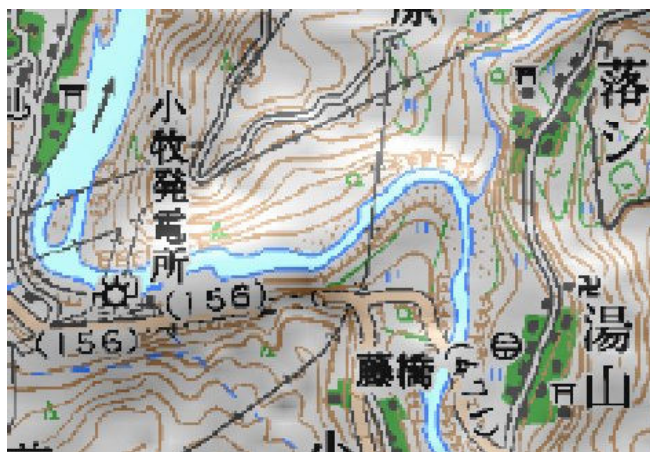
鎧壁（よろいかべ）

鎧壁（よろいかべ）

国道156号線を岐阜方向へ向かい金屋トンネルを越えると、左手に大露頭が見えてきます。これが鎧壁です。鎧壁の下部は医王山累層で、泥岩と凝灰岩が互層を成しています。最上部の20mほどは、伏木谷泥岩層になります。この二つの層が整合の関係になっていることから、医王山累層から伏木谷泥岩層の堆積した時代まで、この地域はずっと海底であったことが分かります。幾重にも重なる雄大な露頭を観察すると、この地層は海の中で堆積したという考えを導き出すことができるのではないのでしょうか。

また、鎧壁基部の川原では、凝灰岩の中にいくつものポットホールを見ることができます。これは、凝灰岩の窪みに流れ込んだ礫が水流によってまわりの岩を削ってきたものだと考えられます。

水量の少ない時期、落シ（おとし）の集落の農村改善センター横から鎧壁基部へ降りることができますが1km程上流の小牧ダムの放水に対して十分注意してください。また、露頭面が風化しているため落石に対する注意も必要です。



鎧壁全景



ポットホール



鎧壁基部の石切跡



崩落した凝灰岩